

## 令和3年度 第1回学校運営協議会

今年度第1回目の学校運営協議会を7月13日（火）に開催しました。

### 【教育活動参観】

縦割り清掃と5校時の授業を参観しました。



### 【話し合われたこと】

#### 1 1学期の学校運営状況について

##### <校長より説明>

- 落ち着いた生活を送っている。天童中部小校長が来校した時、モデルが9年生ということに驚いたようだが、生活の様子を見て納得していた。
- 本校教職員に義務教育学校の弱点をたずねたら、「行事が薄くなる。例えば運動会を例にすると一人が活躍する場面が少なくなる。」「中1ギャップを無くすことが本校のスタイルだが、小学校でうまくいかなかった子どもが他の中学校のようにリセットして中学校で頑張るといふ思いを持ちにくい。」などが挙げられた。今後は、4・7・8年で子どもたちにリーダーを経験させながら頑張る気持ちを育てていく。
- 8年修学旅行を延期した。9年生は岩手方面に修学旅行先を変更し実施する。それまでコロナが落ち着いてくれればよいと考えている。
- 課題を抱え検査等を実施した児童生徒数は昨年18名、医療との連携8名、今年度は検査を希望する保護者が3名、医療につながっている生徒が1名、検査ができる職員が1名いる。  
指導を充実させるためにも医療との連携を密にしていきたい。
- 小体連陸上記録会では、女子ソフトボール投げで本校の子どもが50m以上投げて大会新記録を出した。また、地区駅伝大会では男子が優勝した。これまでで初めて。小規模校で団体優勝できたことはうれしい。地区中総体では女子バスケが2連覇を達成した。また、卓球男女シングルスが優勝した。地区陸上競技では1年男子100mで本校の生徒が優勝した。
- 心の安定を第一に考えていく。特別な支援を必要とする生徒を集団として受け入れ、どう育てていくか。どんなクラスを創っていくかが課題。
- 学力向上策について、定期テスト後に担任団が5～10分間の面談を行い、自分の持っている力を伸ばすようにしている。3年生から9年生にかけてどのような学習を通して育てるか、しっかりと計画を立てて学習していけるように支えてきた。1～3年生は勉強が楽しいと思ってもらえるような指導をしていきたい。
- 5月は6年生の自学強化月間だった。担任だけでは十分な指導ができないため、校長・教頭、ブロック教務、個別学習指導員が数名の児童を担当し、学習の仕方を教えた。勉強を頑張りたい生徒を中心に行っている。8月は3年生、9月はまた6年生と、一人一人に合った学習の仕方を指導していく。1週間にどれだけ勉強ができ、毎日何時間、何を勉強していくかを計画させる。子どもたちは自学の内容が決まっているので、帰宅後すぐに勉強に取り掛かりやすかったと話してくれた。現在も一人一人に合ったアドバイスをしている。何とか軌道に乗せていきたい。
- 課題は朝のあいさつ運動。子どもたちのあいさつの声が小さい。どこかを見てあいさつをする子どももいる。あいさつは基本なので、大きな声であいさつする子を多くしていきたい。
- 学習していることが自分の将来とどう結び付くかを考えさせながら学力向上を5年生から図っていきたい。目標に向かって勉強できるよう、学習と進路意識の2本柱で子どもたちを育てていきたい。1年間準備や試行を行い、やっとスタートを切れた。

萩野の子どもをしっかりと育てていきたい。

<質疑応答>

委員： 私も心の安定が大事だと思う。前から見ると落ち着いている。せわしなさがなくなった。安定した感じがある。

委員： 校長先生の熱意と情熱が良い。トップに情熱があるので先生方も動く。きめ細かな指導をしていただいているので勉強の楽しさが分かってくる。進路意識を持った子はがんばれる。今日の清掃でも、班のリーダーが一人一人の反省を聞くなど、しっかりとリードしているなど感じた。強豪チームは管理をしっかりとされている。掃除やごみ拾いを感謝の気持ちでやっている。教育の基本は掃除。

2 萩野探究タイム・あいさつ運動について

<教頭より説明>

- 本校の生活科・総合的な学習「萩野探究タイム」について、つきたい力を全教職員で共有し取り組んでいる。子ども自身が自ら学習に取り組めるように指導している。
- 萩野探究タイムを通して学び方や物の考え方も指導している。コンピュータやインターネットでの学びだけでなく、直接体験を通した学びが多くなるような指導を行っている。萩野地区のよさを知り、郷土愛を深めることも重視している。
- 1～9年まで系統立てて指導している。「学校を知ろう」、「地域を知ろう」、「萩野の自慢や新庄市の文化」、「萩野の伝統文化を知る」を重視しながら指導している。
- 今年度は、昨年度より計画通りに実施できているが、8年生は修学旅行の延期に伴い、計画を大きく見直しをしている。SDG'sと関わらせながら萩野について考える学習をしている。
- 1年生はアサガオを栽培中。3年生は萩野の自慢について、7月上旬に酪農農家・ニラ農家を訪問した。どちらも初めて見た子どももいて良い経験ができた。新庄・萩野の伝統文化についても学習している。6年生は鹿子踊りの体験を通して歴史や地域との関わりを学んでいる。
- 9年生は萩野探究タイムの集大成として新庄市の未来について自分の考えを地域に提言することを目標に取り組んでいる。
- あいさつ運動は2回終了した。今後ともよろしくお願ひしたい。

<質疑応答>

委員： 萩野探究タイムは、1年から9年を見通した計画で大変良い。私たちも協力していきたいので声をかけてほしい。農家見学でもう一工夫できる部分もあるので、声をかけてほしい。あいさつ運動については、マスクをしているので表情が分からない。大きな声であいさつしてもソッポを向かれる。家では挨拶のやりとりをしているのだろうか。声を出してくれるまで声をかけ続けている。なかなか声が返ってこない生徒は覇気がない。元気がない。習慣づけることで変化していく。大人が声をかけながら改善を期待していきたい。

委員： 探究タイムは積み上げがあると思うが、振り返りの時にどこが良くてどこが悪かったのかを総括しながら取り組んでほしい。

委員： 各学年単位での振り返りや学年のテーマをどのように調べているか、目標を持ってしっかり取り組むことが大事。委員も協力していくので声をかけてほしい。あいさつ運動は以前のような登校班がなく、スクールバス登下校なので、あいさつの声を聞かなくなった。

委員： 萩野探究タイムでは、学校だよりやホームページでフィードバックをしているのだろうか。地域での取り組みを伝えていことで協力したいという方が増えると思われる。

教頭： 子ども達の手紙を通して学習内容や感謝の言葉を伝えている。声をかけていく。

校長： 広く周知するという点ではHPへも掲載していきたい。

委員： あいさつをする子としない子がいる。あいさつをしない子は顔を見てあいさつをすることができない。フェイス to フェイスが基本。

探究タイムは自ら課題を見つけ自分から学習する。先生方の工夫があり、自主性を大切にしてくれていることに感心した。やることが決まっているので、自分たちで決められればと思う。

委員： 探究タイムは、発表の場や取り組みを見ているとなかなかいい取り組みだと思う。故郷をテーマに取り組んでいい。高校を卒業すると戻ってこない子が多いので、地元を好きになる指導は良い。あいさつ運動は2回参加した。知っている子からあいさつが返ってくるが、子どもの方から積極的にあいさつをしてくる子は少ない。子どもの方から元気なあいさつが多くなればと思う。

委員： あいさつ運動に2回参加した。とてもよかった。子どもたちが小さい体で大きなカバンを持ってあいさつをしてくれていた。カバンを置いたら花への水やりや畑の水やりを協力しながら行っている姿が良かった。男女が仲良く取り組んでいるのが微笑ましかった。植えた花や作物を大切にしていることで温かい学校だなとの印象を持った。登校の様子が様々見られてよかった。協議会委員の大きな声が良かった。生徒会役員のあいさつ運動も同時に行われていていい取り組みだなと感じた。地域学校共同活動推進委員として農家や酪農センターとの連携を取っている。ささやかではあるがしっかりと協力していきたい。本校のカリキュラムを通して9年間の育ちをしっかりと支えていきたい。進路の意識づけがしっかりできると心の安定が図られると思っている。

委員： 運営の方針をお聞きし、社会教育課としても主体性を伸ばす取り組みに感謝したい。主体性を伸ばすことが地域を元気にする要素と考えている。「自分の将来につながる」、「地域ってかっこいいな」、「地域にいたいな」という子どもたちの視点があれば教えてほしい。

地域協力隊の方に学校行事参加してもらった。東京から戻った方のイタリアンを学んだことがある。

委員： あいさつ運動について。すれ違ってもあいさつの声が小さい。恥ずかしがっている。小さい時から親がしっかりと指導していくと、ずっととつながっていく。社会人になっても負けない力につながっていくと思われる。

探究タイムも実績がある。積み上げがある。

道の駅については、区長会でもマユの郷や南インターに設置したいと考えている。旅行で来た人が道の駅にも立ち寄って帰っていく。高費用が掛かるが、市長と協議しながら進めていく。高齢化が多い新庄市に、「また行ってみたい」と思ってもらえるような駅にしたい。これから自分の町内で話し合いを進めていく。様々な意見を発表してほしい。

委員： 販売まで手掛けることはいいこと。もっと歴史を掘り起こすことも教育として良い。塩野地区は星がきれいに見えることでいうと全国で2位。また、一本松の話など、地域を掘り起こすこともできる。二枚橋は測量上重要と聞いたことがる。

委員： 昨年度の探究タイムは、教える時間が少なく、発表する時間も1回くらいだった。沼田小の児童に教えたときと比較すると萩野の子はおとなしい。教える立場としてはあいさつはハキハキしている方がよい。あいさつは大きく。返事もはっきり。コロナが落ち着いたら発表する機会を多くしてほしい。芸能も発表する機会が増えると変わってくると思う。

委員： 楽器を弾いて地域を盛り上げることも大切。

委員： 前期課程のテーマに関して、3年生で「萩野を自慢しよう」、5年生で「新しい萩野の農業を発表しよう」とあるが、4年に萩野の農業を持ってくるとより系統性があるのではないかと。4・5年でつながりがあるといい。順番を変えていくといい振り返りができ、つながりがあると思われる。

教頭： 探究タイムは教科との関りもある。昭和開拓や東山開拓などは4年の社会科との兼ね合い、日本の農業で考えると5年の社会科との兼ね合いがある。教科指導とも合わせている。

### 3 市防災訓練について

#### <市環境課職員からの説明>

#### <質疑応答>

委員： 萩野学園側としての訓練案は加味される状況にあるのか。

環境課： 学校側との打ち合わせを通して案を組み入れているが、関係団体と今後調整しながら学校案を取り入れ実施していく。児童生徒も参加できる訓練を今後検討していく。消防団や赤十字等も参加させていく。

委員： 児童生徒の引き渡しを行いたいと聞いていたが、この案で実施できるのか。

校長： 訓練終了後に引き渡しの訓練を行う予定。また、地区ごとの防災シミュレーションに中学生を参加させたい。また、独居老人宅への安否確認も生徒にできないかと考えている。全ての地区でなく、1～2地区でもいいのでシミュレーションを行うことがあればぜひ参加させたい。避難所HUG（静岡県）を活用して避難シミュレーションを行っていききたい。

環境課： 住民対象の訓練である。自主防災組織を立ち上げている町内に声をかけていく。その町内で行えるとなれば避難シミュレーションを計画してもらいたい。

委員： できるかできないかを検討していただき返事をもらいたい。

委員： 自主防災組織の実際の活動はどうなるのか、具体的に動いている組織を紹介してほしい。

委員： ハザードマップでは学園は浸水してしまう。備蓄もない。

環境課： 現在案なので、意見を多くいただき、地域のための訓練となるようにしたい。先日の豪雨で升形小への避難誘導を早めに出した。避難所となっている備蓄品は一極集中で管理している。避難した時の物品については市職員が運ぶことになっている。

校長： 避難所となった時の初期必要物品の準備をしようとしている。その物品をもとに避難所となった時の初期対応を迅速にしていきたい。

委員： 避難所となった時の開放場所はどこなのか

環境課： 体育館を開放し、市職員が対応することになる。

校長： 校内の物品場所は市職員は分からないと思うので、初期対応をしっかりとしていきたい。

委員： 以前2回避難所になったことがあったが、市職員と連携を密にしながら対応することが大切。

環境課： 市教委学校教育課長と密に連携している。

委員： 一昨年度、避難所となった時に教頭が対応した。

環境課： 体育館の片隅に物品を置いたらいいのではないかと。

委員： 避難指示が出る前に、市職員が避難所開設準備を整えておくことになる。

委員： P T A 東北大会の研修で P T A と地域防災の連携の在り方で参考になる事例があった。消防団の活躍の場を設定してほしい。